

# 友よ!



## 東京・石中会だより

第7号

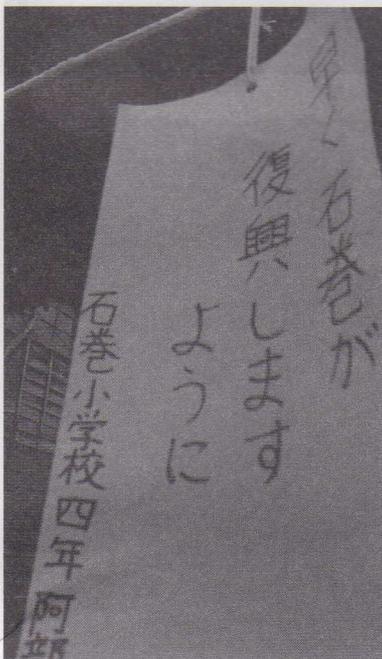


発行 東京・石中会広報委員会 事務局/〒253-0072 茅ヶ崎市今宿 360-3-2-302 Tel.&Fax./0467-85-7631  
平成23年9月20日

### 「第88回石巻川開き祭り」開催

#### 静(前夜祭)と動(本祭)で思いをひとつに「鎮魂」と「希望」に向けた川開き

リポート&カメラ 加藤 友成(18回生)



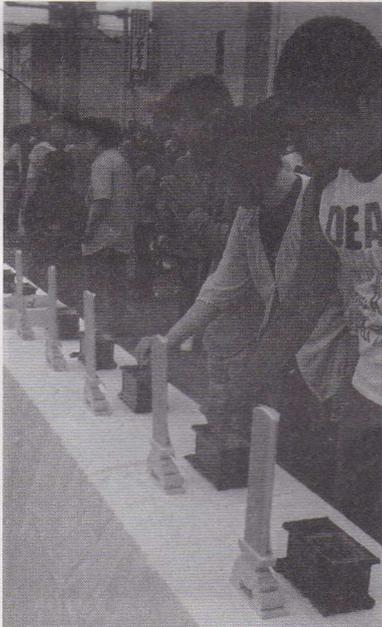
石小児童の復興への祈りが込められた手書きポスター



陸に打ち上げられた船の後方に「負けるな花火」が...

石巻恒例の夏祭り「第88回石巻川開き祭り」が7/31の前夜祭、8/1の本祭と石巻中心部で開催されました。今回は東日本大震災での犠牲者への「鎮魂」と復興に向けた「希望」に思いを込めて例年とは全く異なったものとなりました。7/31の前夜祭は「東日本大震災供養祭」として石巻仏教会により犠牲者への慰霊がしめやかな雰囲気の中で営まれ、多くの市民の方々が焼香をされておりました。また北上川の流域では一万個の流燈が行われ犠牲者への祈りが中瀬公園を挟むように流れていきました。8/1の本祭は規模を縮小しての開催となりましたが前夜祭とは違って変わって多くの市民で賑わいを見せました。陸上の行事としては湊中学校吹奏楽部、復興みこし、はねこ踊り、等に加えてミッキー・マウスも登場、多くのボランティアの参加もあり大いに盛り上がりを見せました。また夜には中瀬公園から約4500発の花火が打ち上げられ、第一部「祈り」第二部「希望」をテーマとした花火は特別な思いを持って多くの方の心の中に映ったことと思います。厳かな中で進められた鎮魂の「前夜祭」そして復興への希望として熱気の中で行われた「本祭」と静と動の

お祭りは困難の続く石巻に一筋の光を発するものとなりました。



位牌に線香をあげる子供たち



北上川中瀬に思いの詰まった流灯風景



鎮魂の祈りを捧げ1万個の燈籠が流された



中央商店街には久しぶりの大漁旗も飾り付けられた

PHOTOレポート  
 2011年3月11日  
 午後2時46分

# 地震と大津波が襲い呑み込んだ 驚愕、戦慄、恐怖、悲哀、地獄絵図

現地取材・文 浅野 剛(36回生)



中瀬付近 ここには岡田劇場があった



中瀬付近 内海橋の欄干が曲がっているのがわかる



立町一丁目付近 路地に重なりあう瓦礫と車 奥に見えるのが小室眼科



石巻日々新聞は日刊紙の使命を果たした新聞人魂を  
 みせ全国から展示会の引きも多く絶賛された。



地元紙の使命を十分に果たす後世に残るグラフ紙の  
 発刊は意義あるものとなった。(石巻かほく刊)

## 津波の爪あと

2011年3月11日の地震の直後、私たちが育った石巻の中心部は津波に襲われました。

地震から2週間経って私が目にした光景は信じられないものでした。

道路には船が横たわり、狭い路地には瓦礫や車が重なりあって通行できない状態です。

掲載の写真は地震から2週間後の市の中心部を撮影した時の一部ですが被害の甚大さが伝わるとおもいます。

〈石小・鈴木校長の隣人愛〉

私が会員となっている団体の内の一つであるNPO法人ネパール・ミカの会(ネパールの小中高校を中心に校舎建設(現在まで14校に建設)や学用品・図書・制服などを支援している会員130名のNGO)も東日本大震災募金を企画、支援先を被災地出身の会員の母校(小学校or中学校)に直接寄贈するとの方針で会員に募ったところ支援該当学校4校となり、とりあえず5月までの募金額を支援金として持参することにしました。

私の支援金の届け先は、石巻小学校か石巻中学校が該当、しかし石巻中学校は山の上にあり被害はほとんどないので、石巻小学校に支援すべく電話で申し入れたのですが、鈴木則男校長先生から「1階部分への浸水だけで大きな被害はなく、現在は片付けも終わり授業は滞りなく再開できています。しかし隣の門脇小学校は津波により校舎は損壊、火災も発生し被害が非常に大きく、現在門脇中学校に間借りし授業を行っているほどです。

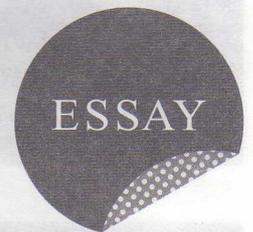
できれば門脇小学校に支援してあげて頂きたい」と温かく隣を気遣う言葉を頂き、門脇小学校に支援先を変更しました。

6月10日石巻到着後、石巻小学校にお見舞い後、直ちに門脇小学校に向かい、佐々木隆哉校長にお見舞い支援金をお渡ししましたが、校長先生は「この支援金は津波により教科書、学用品を流失してしまった生徒達の教材購入などに使わせて頂きたい」と、再三にわたり感謝の意を表しておられました。帰京数日後、佐々木校長先生からの礼状に加え、生徒代表からの絵手紙礼状3通に折鶴添付が郵送され、感謝を絵手紙での表現に涙が出る程の感激でした。

折り返し「東京スカイツリー7枚、東京タワー3枚、ネパールの子供たち10枚」の自作写真アルバム(A4版プリント)を郵送にてプレゼントし感動の気持ちをお返ししました。楽しんでもらえればありがたく思っているところです。

思いはひとつ。

—— 被災地 石巻までの道のり・教訓、感動話



3.11 あの日のこと

阿部 剛夫(4回生)

〈山形ー新潟経由帰京の苦難行状記〉

3月10日所用でカミサンと塩釜、石巻に出掛けた。今夜は石巻のホテル泊まり。その夜は旧友達と5人居酒屋で酒を飲みながらむだ話をしてた。その間小さな揺れは何度かあったが、気にする程の事ではなかった。夜中2時頃、大きな揺れで目が覚めた。身仕度をし、非常階段を確かめて、ベッドにもぐり込んだ。

翌日、石巻9時55分発快速で本塩釜下車、叔母とお昼ご飯を食べて、帰りは本塩釜14時30分発あおば通り行きの電車に乗った。その16分後、14時46分地震発生、電車は停止、車両は左右に大きく揺れた。座席の手摺をしっかりと握って電車が倒れた時の脱出の事を考えていた。そのうち、車掌さんの指示で順次線路に降りて最寄りの駅(小鶴新田)まで歩き、ホームで避難することになった。その間も強い余震が度々起きて恐怖感に悩まされた。そのうち周りがうす暗くなってきた。駅員さんに泊まることを聞いたら、この辺には無い、45号線を仙台駅まで歩くしかないとのこと。街灯も信号機も消えている国道を歩いて仙台にでた。駅舎の天井は崩れ、鉄筋は大きく曲がってドアは閉鎖していた。始めは歩道橋の下にいたが、余震の度に歩道橋から離れるようにスピーカーで注意された。今夜どうするか心配で近くのメトロポリタンホテルを捜した。中は人でごった返して天井からはいくつもの水漏れ、人は右往左往するばかり、そのうち従業員から皆様を安全な場所にご案内するとの説明があって、地下1階に案内されて通路に段ボールを敷いて避難するように言われた。夜の8時頃

バターロール4個入り袋を2人で食べるよう水と一緒に配られた。それは大変ありがたかった。一晩中強い余震が断続的に続いた。その内家族、友人への電話連絡が始まったが繋がらない。やがて公衆電話が無料で使えるので行列ができた。私も30~40分並んで弟と連絡がとれたので、子供達への連絡も頼んだ。

翌日は、朝ホテルのフロントで避難場所の地図を渡されて、好きな所に移動するように促された。私達は仙台市役所に行き、今夜はここでお世話になることに決めた。カミサンは余震が怖くて眠れないと言うので、明日は早起きして山形に逃げることにした。早朝3時に起こして市役所前でタクシーを捕まえて山形に脱出した。山形に着いたらJRは不通、山形空港から飛行機は飛ばない、途方に暮れていたら、タクシーの運転手さんが追いかけてきて、「どこまで行くの」が聞かれた。「大宮まで行きたい」と言ったら、新潟まで行けば帰れることが分かった。そこで、新潟までのタクシー代について運転手さんと談判、4万円で合意した。走り出したら新潟市手前の新発田あたりでメーターを倒してくれた。タクシーを降りて、帰りの切符を払い戻し、これに若干プラスして大宮までの切符が買えたのでホッとした。3日ぶり米の飯にありつけて、余震からの解放感と相まって二人にやっと笑顔が戻ってきた。これが仙台から大宮までの脱出行の顛末です。

終わりに、故郷石巻の再生、復興、復活に向けてお互いの固い絆が育っていくことを願って止みません。

## ふるさと石巻の再生を願う

市川 洋子(8回生)

### 〈小学生に学ぶ地域社会のありがた〉

この世のものとは思えない、言語に絶する災害の傷跡が、まさに津波のように次々とテレビや新聞で報道される悲しい日々が続きました。このいたましいニュースの連続の中で、私は次の一つの報道に特別な思いをもってひきつけられました。当時はまだ私自身も石巻に住む兄と姉の家族の安否の確認もできずに、不安と焦燥の日々を送っていたのに、なぜか心ひかれるものがあったのです。その報道というのは3月16日の朝日新聞朝刊で、石巻市立釜小学校3年生の相澤寿仁君が、家族と車で避難する途中、津波にのみこまれ、家族と離ればなれになって気を失っているところをある男性に助けられ、たまたまそこを通りかかった近所のおじさんに引き取られて、今は一人で避難所を回って家族を探し続けているという内容でした。

この相沢君のけげな行動もさることながら、相沢君を引き取り優しい援助の手をさしのべてくれた近所のおじさんや、避難所巡りをする相沢君に優しく声をかけ、励ましてくれているであろうおばさんたちの姿が目に見え、深い感銘を覚えました。石巻には、今でもこんな力強い地域の力が生き続けていたことを知って、安堵の思いに浸り、涙ぐんでしまいました。

ひるがえって、私の住む東京の学校教育について考えてみると、公立学校の学校選択制や通学区域の自由化などの教育施策が進められています。そして、このことにより学校と地域社会の連携が

薄れ、子どもたちの地域社会への所属感が失われるとともに、地域住民も地域の子供たちへの温かいまなざしを失いつつある、という深刻な課題が指摘されています。

### 〈心救われた石巻の地域愛〉

この傾向を、心のどこかにわだかまりとして持っていた私は、この報道に触れた時、今回の震災は私たちの郷土にはあまりにも残酷でむごい仕打ちではありましたが、私たちのふるさと石巻には、地域を愛し、守り、育てる力がしっかりと息づいてくれたことに、感謝するとともに心から喜ばずにはいられませんでした。そして今、みんなに愛され、大切にされてきたふるさと石巻が、一日も早く元の石巻に生まれ変わることを切に願っています。

その後、相沢君はどんな生活を送っているのだろうか、時々思い出しても不安な気持ちを抱いていましたが、6月21日の朝日新聞朝刊でまた寿仁君の記事を見つけました。両親と祖母はお亡くなりになってしまわれましたが、今いとこの家で元気で暮らしているとのことでした。

この記事を読むにつけても、日本中のすべての子どもたちが、相澤寿仁君のように、自分が生をうけた地域社会の中で、安心してすこやかに成長してほしいという願いを一層強くいたしました。

## 東日本大震災 石巻帰省報告

一般投稿 佐々木 次臣(13回生)

この度の東日本大震災では地元石巻も大変な災害を受け、私は3月16日にライフラインが全て寸断されている石巻に入ることになりました。行程は、羽田より秋田空港へ、そこからバスで山形へ、また乗り換えて仙台へと雪の中をバスで10時間かけてたどり着きました。仙台で友人の家に一泊し、翌日チャーターしたタクシーで3時間かけて石巻にやっと入ることができました。

当然市内はまだ電気、水道、ガス、電話もなく、真っ暗の中親戚、友人を捜して避難所を巡りました。親戚、友人も多数亡くなり、家も倒壊し、行方不明者もいて短期間では対応しきれず、一泊してまた山形空港から茅ヶ崎へ戻ってきました。

その後、2回支援物資とボランティアの方々を連れて行き、本日(4月15日)は4回目の帰省で、トラック3台とワゴン車2台で石巻と女川に行き、来週の19日に戻る予定にしております。

現地は、ボランティアの人数が全然少なくて、食料・衣類も市の保管場所に山積みされており、仕分けや配達の人と車が少ないので行き届いてなく、市の職員に方法を考えるように進言してきました。

市の対応は、職員が少ないので全てが遅く、1カ月過ぎてても瓦礫や車はまだに山積みされ、仮設住宅の場所も決められず、

ほとんど進んでいないのが現状です。それに行方不明の方々が2,000名以上もおり、津波で沖に流されたり瓦礫の下に多くの人が埋もれているようです。亡くなった方の弔いも、火葬場が稼働していないために土葬で仮埋葬することになっていました。私も帰省中に親戚と友人の仮埋葬に立ち会うことになっております。

帰省の度にいろいろな問題が発生し、対応されていない状態なので、こちらに戻ってから議員と国に出向き、状況説明と要望をお願いしてきました。

我が母校石中を始め石小・石商など全ての学校が避難所になっており、避難所を訪れた際に何人かの知人に会い、無事を確認できて安堵することもありました。お会いできた方々には何とか励ますのですが、やはり行動で表すしかないと思い、これからは第5段・6段と帰省を予定しております。

今回は国会議員を私の車に乗せて石巻と女川を案内し、市長・町長・警察・消防・自衛隊・ボランティア・避難所の方々と短い時間でしたがお話しをして実情を見聞していただきました。個人でできること、公の機関でやってもらうことがあります。今後も両面に渡って活動して行きたいと思っております。

## 石巻人魂での復興を信じる

星野 祐一(25回生)

震災から8日目、石巻に戻りました。市役所前から立町、アイトピア中央商店街を歩くもヘドロや瓦礫、流された車があちらこちらにあります。川沿いの道には何艘もの船が打ち上げられ、内海橋を

塞いでいます。街の皆さんに笑顔はなく、衝撃の深さが伝わってきます。あれから4カ月、少しですが皆さんに笑顔と活気が戻ってきたように思います。復興へ向け、石巻人魂の力を信じています。

# 第8回「東京石中会の集い」レポート

—2010年6月6日 銀座に咲いた歓談の花華—



▲石中OB・OGの勢ぞろい。嬉しさ、楽しさに破顔一笑の連発だった



▲ミスターヤングのシンボルは36回生の浅野剛君だった



▲レディス&ジェントルメンの見本は鈴木(恵)さんと菊池さん(左)で乾杯!

## 積極的若手登用で盛り上がり

今回の総会は従来からの脱出を図り「盛り上げあっぷ」と銘打っての開催となった。食卓テーブル配置を個人膳とし座がゆったり、ゆっくり、ゆかしく、ゆかいさあふれる雰囲気、にイメチェンした。とくに若手会員への積極勧誘が奏功し17、18、22、25、36回生の滌刺フェイスで会場は40名を超えるメンバーで華やいだ。これからもどしどし新アイデアを凝らしアットホームな友愛あふれる楽しい会を目指そう!を合言葉に再会を誓いあった。

レポート 菊池 正(9回生)・写真 青沼 義信(3回生)



▲青沼さんの祖父作成のミニ模型・日光東照宮写真展も開催し好評を博した。  
(なお前号での掲載文中、東武百貨店とあるのは東武鉄道の誤り。訂正します)

# 平成22年度 母校・石中での〈教育講演会〉



◀教科にはない先輩の社会实践を学ぶ「課外授業」に後輩たちは憧憬と感動に耽った

読売日響  
ファゴット首席奏者  
井上 俊次さん (33回生)

毎年恒例となって6年目を迎えた石中における「教育講演会」は平成22年11月15日(月)、読売日本交響楽団のファゴット首席奏者井上俊次さん(石中33回生)が母校・石中を訪れ、300余名の在校生らを前に「夢を追いかけて」と題して講演した。現在の地位を築くまでの道のりは苦労と努力の連続で、ウサギとカメに例えると自分は才能あるウサギタイプではなく、努力を積み重ねゆっくり進むカメタイプと自覚していると語り、その過程でその時々と師と仰ぐ人との幸運な出会いもあって現在にいたっていると、ドイツ留学中のエピソードを交えながら熱く語りかけた。講演の最後にバッハの「無伴奏チェロ組曲第一番よりジグ」をファゴットソロ演奏で幕を閉じた。音楽や芸術を志す在校生にとって大いに刺激になる講演内容となり、第二の井上さんが誕生することを期待したい。

井上俊次(47才)さんのプロフィールは、昭和55年3月石中卒業後は東京芸術大付属高校、東京芸大、新星日本交響楽団、N響、ドイツ留学を経て現在は読売日響のファゴット首席奏者として活躍し、ファゴット奏者では日本の第一人者である。(なお実家は「サルコヤ」)

(追筆)

「3.11の東日本大震災」後5月1日に避難所となっている石中体育館にオーボエ奏者の奥様と訪れ、ポピュラーな曲の慰問コンサートを開いている。その後も東北の被災地で同様のコンサートを暇を見つけて何回か計画しているという。(記・飯田勝紀)



洗練されたファゴットの演奏を披露する井上さん(右)石巻中体育館

## 石巻出身・ファゴット奏者井上さん 感動の音色響け 被災地支援、母校で演奏

国内の第一線で活躍する「ナルワイズ」、ほかに石巻市出身のファゴット「ふるさと」「臘月夜」ト奏者井上俊次さん(47)「おおさサント」翼を「千葉真松戸市」が「下さい」など。日、避難所となっている母校の石巻中体育館でコンサートを開いた。オーボエ奏者で妻の恵子さん(46)と協演、石巻市大手町の星田貴さん(41)のピアノ伴奏で名曲を中心に13曲を奏でた。同校に身を寄せる被災住民は、洗練された演奏を羨しみ、心を癒やすひとときを過ごした。

井上さんは石巻中を1キ行進曲(ヨハン・シュトラウス作曲)でコンサートを締めくくると、大きな拍手とともに、自分の演奏する音楽を聴いて安らいでほしいと思いが、コンサートを企画した。

演奏したのは、デイズニードレより「小さな世界」星に願いを、ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」より「ドレミの歌」「エ

70代の女性は「仕事を休んで聴きにきた。久しぶりに音楽に触れ、うれしくて感動した。素晴らしい演奏だったと喜び、60代の女性も「気持ちよく、元気をもらった」と笑顔で話した。

井上さんは「故郷の惨状に言葉が出なかった。市民が前向きな気持ちになれるよう手助けしたい」と述べた。5月末に大崎町鳴子町で被災者向けのコンサートを開く。今後、ボランティアで同様のコンサートを開催したいという。

井上さんは東京芸大音楽学部卒。新星日本交響楽団、NHK交響楽団を経て2006年から読売日本交響楽団の首席ファゴット奏者を務める。現在、東京音楽大非常勤講師。

石巻では、今年9月に市民会館で開かれた石巻市合併5周年記念「第九をつなごう」公演(公演実行委員会主催)にファゴット奏者として出演した。

(石巻日々新聞記事より)

# 「東日本大震災」復興支援報告

事務局長 飯田 勝紀  
(9回生)

「東京石中会」は3.11東日本大震災が起きて間もなく緊急の役員会を開き、「震災復興支援募金」を募ることになりました。呼びかけの対象は東京石中会の会員661名にお知らせしたところ、233名の方から総額で2,425,000円の募金が寄せられました。個々の金額は10万円の方もいて、表示すべきかどうかは役員会では迷いましたが、故郷を思う気持ちは皆同じと判断し氏名だけを表記することにしました。役員会の思いは、想像を絶する大災害に見まわれた故郷石巻の一日も早い復興を支援したいと考え、募金期間を20日に絞り敢行しました。役員会としては、期間が短すぎるためにそれほど多くは集まらないのではないかと心配したのですが、予想をはるかに超える多額の募金が寄せられました。

このことは、故郷を離れて暮らす東京石中会の会員の絆を一層強くしたものと感じ、悲しい出来事の中でホッとする思いでした。改めて役員一同感謝申し上げます。

なお、復興支援金の寄贈先につきまして当初考えておりましたのは、石中と石巻市役所でしたが、石中の境校長は「幸いにも石中の生徒は一人の被害者も出ず、学校自体も被災しなかったので、石巻全体を考えて市役所に寄贈してほしい。」との要望で全額を石巻市役所に寄贈することにしました。募金集計の途中ではありましたが、5月8日に一次金として2,200,000円を事務局長の飯田が直接手渡し、その後6月1日に残りを二次金として120,000円を銀行振込で合計2,320,000円を寄贈しました。

事務局長 飯田勝紀

## 【復興支援金報告】

1. 募金協力者数	233名
2. 募金総額	2,425,000円
3. 寄贈金額	2,320,000円
4. 募金活動諸経費	105,000円(募金総額の4.4%)
(募金活動諸経費の内訳)	
① 募金案内資料印刷費	11,200
② 同上 発送費	35,750
③ 封筒印刷費	16,892
④ 礼状ハガキ代	11,500
⑤ 振込手数料等	29,658
合 計	105,000

会計(副会長) 鈴木健司



## 震災復興支援募金者一覧 (順不同・敬称略)

<3回生>阿部 剛、坂本 武久、猪狩 和子、大木 郁子、秋保 光子、水澤 昇、武山 勝、後藤 久男、青沼 義信 <4回生>森田 享子、大西 葉子、阿部 剛夫、細川 明子、井上 英治、大熊 正子、大沢 寿子 <5回生>徳江 明、松本 悦子、遠藤 明夫、千坂 健、上原 藤三、三澤 和子、佐藤 仁子、佐藤 英雄、早川 幸子、猪俣 昌子、山口 三郎、井上 勝夫、島子 妙子、阿部 寿郎、高橋 貞勝、鈴木 恵美子、高村 多恵子 <6回生>久道 勝信、中村 繁子、細川 金子、増 健寿、末永 敏郎、鈴木 京子、鈴木 季子 <7回生>芳賀 鐵夫、黒川 淑子、伊藤 関子、田上 富美子、高橋 威夫、金澤 功、伊藤 恵子、広瀬 知子、北川 貴恵子、藤沼 絢子、荒 信子、浅野 健治 <8回生>澤田 知子、金森 喜美子、渥美 淳、鈴木 健司、橋本 照嵩、市川 洋子、古胡 満子、樽見 和子、佐藤 恭子、高橋 静子、荒木 軍司、高嶋 展広、川島 あつ子、御牧 道子、山手 てい子、吉田 瑛子、藤井 治恵、首藤 光春、梅沢 治子、今野 ひさ子、小泉 里子 <9回生>山川 孝子、加藤 照子、加島 恵美子、梓田 洋子、森 孝二、早田 光、田中 龍子、伊藤 幸子、喜友名 典子、飯田 勝紀、滝川 喜久子、青山 さわ、菊池 正 <10回生>高橋 篤四、高橋 修、沼田 猛、三浦 照雄、今藤 秀子、勝又 勝、矢澤 節子、滝川 紘治、緒方 正子、杉山 富子、大串 一枝、柏倉 典子、齋藤 宣子、杉山 茂、亀山 雄臣、大高 朋子、舘 克憲、奥村 カツ子、本田 生子、高泉 正勝、田代 勝彦、菅ヶ又 桂子、今井 和代 <11回生>高橋 和子、栗石 登志子、渡邊 みよ、中島 富子、吾妻 時子、池永 喜美子、菊地 保夫、高井 篤三、栗原 光男、鳴海 佳子、村田 耕亮、間部 和子 <12回生>諏佐 良子、西條 修、吉田 文也、蟹澤 詔子、中塚 克子、奈良坂 仁、南里 憲三、佐藤 まつ子、阿部 恵子、金澤 由紀子、奥田 捷治、長谷部 節子、中里 成男、江尻 益子、橋村 蓉幸、金澤 洋、安田 淳子、岡崎 国男・好子、粉井 あき子、村上 秀一、今井 あい子、佐藤 正克 <13回生>竹内 政子、小杉 寛子、吉村 久仁子、赤塚 誠哉、神志名 教子、虻川 智子、星 貞子、小野寺 弘子、須田 正毅、保坂 智子、勝島 節子 <14回生>若狭 公子、塚本 国樹、細川 忠勝、上間 幸子、鈴木 照子、山中 圭子、梅沢 智、小川 孝三郎 <15回生>高橋 仁子、池田 精寿、金澤 きみえ、片山 洋子、畠山 清光、山形 昌子、竹村 裕子、今野 和子、高田 久、太田 とし子、阿部 博子、末廣 千代、高橋 智江、星澤 晋、新谷 京子、西村 千沙子、村山 由希子、星 憲夫、檜佐 秀美、金子 和子 <16回生>大久保 和夫、坂口 いく子、鈴木 禎子、渡辺 啓子、岡 康博、佐藤 政彦、青山 憲介、藪田 美智子、佐々木 光子、須田 厚、船山 浩志、金澤 哲、吉田 義弘 <17回生>佐藤 真木男、熊谷 道夫、今野 雅隆 <18回生>石森 邦昭、遠藤 加寿子、笈原 健、渡辺 総一、塩田 美知子、鈴木清勝・裕子、中西 園子、加藤 京子、山口 広治、岩崎 久仁夫、吉田 るり子、小野恵久子、本橋 富久子、志村 明子、西田 美知子、加藤 友成、山崎 容子 <19回生>亀山 憲一郎 <20回生>唐澤 泰子、森 佳代子 <21回生>柳 あつ子 <25回生>星野 祐一、市川 裕子、西崎 恵子、小林 秀子 <26回生>水澤 茂、鈴木 雅芳、高橋 周泰、大久保 多賀子、高橋 裕子 <28回生>加藤 英子 <29回生>阿部 泰 <32回生>清水 昭浩 <33回生>井上 俊次 <36回生>浅野 剛

## 「石巻雄勝法印神楽」鎌倉で復興支援の舞い

壊滅的被害をうけた「雄勝法印神楽」は全国の神楽愛好家の激励を受け歴史の町・鎌倉で復興支援公演を行うことになりました。国指定の重要無形民俗文化財で6月には国立劇場で公演し好評を博したばかり。今回は神楽で使用の面、衣装、太刀が流されてしまい室町時代から600年も続いた伝統文化も危機に瀕しました。しかし全国の愛好家の支援で今回の公演が決定しました。

ちなみに「神楽保存会」副会長兼演舞者の伊藤博夫氏は雄勝の新築自宅は流失し仮設住宅住まいとのこと。また主催の湘南リビング新聞社での企画者2人(平塚、青木両氏)も女川、雄勝出身者で全員石巻出身です。なお、売上金は石巻市に寄付されます。

(石巻復興公演鑑賞にご参加ください)

チケット料金:3000円(昼夜通しは5000円)

申し込み予約:湘南リビング新聞社 (0466)27-7411

公演日時:10月9日(日) 昼の部13時30分、夜の部17時30分

会場:鎌倉宮

交通:JR横須賀線鎌倉駅東口下車 江ノ島電鉄鎌倉駅下車各徒歩30分

バス鎌倉駅東口から京急バス「鎌20・4番」大塔宮行き 大塔宮下車

主催/湘南リビング新聞社 共催/鎌倉観光協会 後援/石巻市、鎌倉市、国立劇場、日本ユネスコ協会、鎌倉ユネスコ協会



## 武蔵野女子学院中学・高校で被災地生徒受け入れ

東日本大震災で被災した生徒たちを受け入れを長期的に支援する学校が武蔵野女子学院(西東京市)だ。復興支援として20名を中学で最長6年間、高校で最長3年間で授業料含む学費は在学中全額免除。生活費補助は在学期間中1名あたり月額3万円。仏教主義の人間教育を貫き80年余にわたって命の支えあいを根本理念とする同校は、望月伸造校長のもと「子供たちの一日も早い笑顔を取り戻させたい」と取り組んでいる。

希望者の方はこちらまで

【武蔵野女子学院中学校・高等学校】

電話番号:042-468-3256

高校の場合:八巻教頭先生/中学の場合:小暮教頭先生 まで

受付・問い合わせ時間:9:00~16:00

東京都西東京市  
**武蔵野女子学院中学校・高等学校**

＜東日本大震災復興支援＞  
**被災生徒20名受け入れ、長期的に支援します!**

このたびの東日本大震災において被災された方々、地域の皆様、及び、関係者の皆様からのお礼を申し上げますと共に、一刻も早い復旧を念じ申し上げます。  
 さて、3月11日の東日本大震災発生から1年が経過し、大震災の被害を中心に被害者の被害をもちました。被災者及びその家族に大きな被害が続き、経済第一優先も判断が難しい状況であります。そのような中、被災した生徒・学校もまた数多くあり、進学が困難になったりもした中、学校の進学を支援している実情があります。  
 八十有年甲子にわたり、我が校の歴史を築き上げてきた武蔵野女子学院の人間教育を行ってまいりました本校では、この被害者の大震災に際し、以下の支援で、先ず不安を解消する機会にしたいとの思いをもち、さらに長期にわたる支援に立ちたいとの思いをもち、以下の支援を行ってまいりました。

- 被災生徒の受け入れ  
 中学、高等学校の区分に問わず総数20名
- 受入期間  
 中学は最長6年間、高校は最長3年間
- 授業料を含む学費  
 授業料は在学期間中全額免除
- 生活費補助  
 在学期間中1名あたり月額30,000円

留意:受け入れにあたり希望を多く受ける場合があります。その子供たちに学びの場を提供し、笑顔を取り戻していただきたいとの思いをもち、希望の人数を定めて受け入れたいと考えております。この受け入れが復興の一助となることを念じております。

お問い合わせはこちらへどうぞ(受付時間 9:00-16:00)  
 武蔵野女子学院中学校・高等学校 TEL:042-468-3256  
 高等学校部:小暮 中学校部:小暮

## 「石巻賛歌」復興支援に初のCD化発売

被災地石巻市の歴史、自然を描き市制40周年時の1974年に上演された「カンタータ 大いなる故郷石巻」。歌と管弦楽による壮大な賛歌が、今回初めてCD化され発売となった。売り上げは復興のため石巻市役所に寄付される。作曲は石巻出身の小杉一郎氏で東京音楽学校(現東京芸大)時代から映画音楽に携わり、日活「宮本武蔵」「サイボーグ009」などの映画、テレビ音楽300本以上を手がけた名匠と謳われた。父は俳優の小杉勇。作詞は石島恒夫氏。歴史、民謡や子守唄などが盛り込まれた傑作だ。初演時の録音が、小杉氏自宅から偶然発見された。野趣あふれるキジ撃ち、川つりなどのBGMはインパクト大だ。

演奏/東京交響楽団 歌手/伊藤京子、友竹正則 朗読/山内 明 合唱団/石巻合唱団

定価:2000円(なお売上全額を石巻市に寄付する。) 注文:ファックス03-3302-0527へ

または伊福部昭公式ホームページ(<http://ifukube-official.kifu.officelive.com/charity.aspx>)



# 3.11事務局繁忙記

事務局長 飯田勝紀

3.11を境に事務局に会員から電話が多くかかってきた。「石巻に何度電話しても通じない! 何か方法はないか?」「石巻〇〇町の被害状況を知りたい。」「一人暮らしの父親に連絡が取れない、何か方法はないか。」等々、困り果てたあげくに切羽詰まった電話が多かった。私も同じように実家の兄や妹に電話を何度掛けても通じなくてやきもきしていた。事務局という役目柄少しは役に立ちたいと思い、あちこちに電話を掛けたり、インターネットで調べたりして情報集めに奔走した。役員の何人かは石巻入りを取行して情報を得ていたの、それからは問い合わせにも解る範囲で応えられるものもあったが、あの時は本当に解らないことだらけだった。

また、友人が送ってくれた生々しい石巻市街地の動画や写真を入手したので、アドレスが解る範囲でEメール転送したところ、たくさんの感想返信が届いた。

4月中旬になって「復興支援募金」の呼びかけをすると、普段交信のない何人かの方々から賛同の返信が寄せられた。その中には何度もボランティアで石巻に行っている方の活動報告や、何故か復旧復興が全く進んでいないと嘆くメールも届いた。遅まきながら私も5月7~9日にやっと息子運転の車で帰省する決心がついた。皆さんから寄せられた復興支援金を一日も早く届けるべく役員会の使命をおびて石巻入りしたのだが、変わり果てた生まれ故郷の残酷な光景を見て言葉を失ってしまった。(被災地報告は他の役員の記事に任せることにしたい。)

「3.11東日本大震災」は戦後最悪な大惨事であって、現地で遭遇された方々の悲惨さと思うとどう捉えていいの自分でも整理がつかない。故郷を遠く離れて暮らす東京石中会の皆さんも同じ気持ちと察する。ただ、この戦禍の中でたくさんの東京石中会の皆さんが心をつ一つにして、連絡を取り合ったり復興支援募金に協力したり、石巻を何とかしたいと思う気持ちの絆が一層強くなったような気がした。「東京石中会」も少しは役割を果たせたのかと心を強くしている。

## ア・ラ・カルト

### 写真展「石巻」3.11日を越えて

悲惨な故郷の姿を写真で伝えようと石巻在住の写真家、愛好家によるフォト展が東京・町田市フォトサロンで8月に開催され多くの感動を与えた。出展者は石巻市内で写真店を営む池田進さんと氏の指導を仰ぐ阿部京花さん、もう1名は竹内敏恭さんと夫人・政子さん(13回生)の夫。企画者・青沼義信さん(3回生)の尽力によって実現の運びとなった。市内の惨状、避難所生活の子供たちの姿など印象的だった。

ご記市  
覧録民  
くのだ  
敬写  
さいを  
た

2011  
8.20-8.29

写真展・石巻

竹内敏恭・池田進・阿部京花

薬師池公園  
町田市フォトサロン

### 「かんがる一の会」チャリティ開催

東日本大震災遺児支援の主旨で開催された第1回チャリティイベントが7月に東京医科歯科大学大ラウンジで行われた。女性の一生を通してよりよい妊娠、出産、育児を考える会として1990年発足。同会には坂口(旧制高橋)いく子さん(16回生)らが活動しており満場に感銘を与えた。「ふるさとまで届きますように」と題した歌手の大森智子さん、ピアノ中川賢一さんによる演奏や石巻医療報告を和田忠志先生の講演などで盛会となった。

子どもたちに笑顔を!

かんがる一の会  
第1回 チャリティ イベント

2011. 7月8日(日) PM14:00~16:00 開場 13:30

東京医科歯科大学 MD タワー 26F ラウンジ

全席自由 ¥1,000

PROGRAM

### 詩歌

ふるさとの色-1日も早い復興を願って 詠み人 鈴木健司(8回生)

あの頃の よかった頃のふるさとの 懐かしいあの色は きれいだっただあの色は  
どこか遠くに消えました

いくたびか 花咲く春を重ねれば きれいな花の色に似た よかった頃のふるさとが  
戻りますようにと祈ります

春に咲く いとしい花を眺めては 遠いふるさと想います 悲しい日々を乗り越えて  
朝日に光るふるさとを

気軽にご相談ください。

弁護士 鈴木 雅芳  
(26回生)

多田総合法律事務所

〒105-0001  
東京都港区虎ノ門2-8-1 虎ノ門電気ビル3階  
TEL: (03) 3597-8855 FAX: (03) 3597-8856  
E-mail: suzuki@ts-law.jp

### 石巻の復旧・復興のため、頑張っています。

電話 0225(2)2971	栗野蒲鋒店	水産庁長官賞に輝く名品	電話 0225(2)1030	井上海産物店	海産物のお土産なら	電話 0225(2)1842	そばもりや	老舗の美味しいおそば宴会合	電話 0225(9)35150	浜長	四季折々の磯の香りをどうぞ	電話 0225(9)7080	藤間流師範 藤間京緑 (旧姓・猪股美智子)	日本舞踊稽古所にどうぞ(山下町)	電話 0225(2)1258	寶来寿司	味が宝のれんも宝の老舗	電話 0225(9)3658	サルコヤ	玩具や楽器のことなら
----------------	-------	-------------	----------------	--------	-----------	----------------	-------	---------------	-----------------	----	---------------	----------------	--------------------------	------------------	----------------	------	-------------	----------------	------	------------

## 新役員 ご紹介

平成23年1月から4人の新しい役員が加わりましたので紹介します。

①5回生の徳江 明さん ②12回生の南里憲三さん ③18回生の加藤友成さん ④25回生の星野祐一さん  
 昨年の役員改選で若干若返りましたが、この4人が加わり更に充実しました。よろしくお祈りします。

## 年会費の納入、有難うございました。

平成22年度の年会費は、178名の方々から振込みがありました。平成23年度は、「総会と集いの会」が大地震のため開催されませんでした。大勢の会員の皆様からの年会費の納入をよろしくお祈りします。これからも母校・石巻中学校発展のため、支援として実施されている講演会等の活動に力を注いでいきたいと存じます。

### ●平成22年度・東京石中会・年会費払込者名簿

(第3回生)阿部剛、秋保光子、結城常明、青沼義信、嶋田寿子、大木郁子、猪狩和子、加藤英子、後藤久男、水澤昂、森山滋之、佐々木襄、坂本武久、武山勝(第4回生)森田享子、金野和夫、阿部剛夫、栗野登茂江、三浦貞夫、大西葉子、大熊正子(第5回生)鈴木恵美子、島子妙子、岩井和子、佐藤仁子、井上勝夫、菊田淑子、越後京子、上原藤三、小松悦子、松本悦子、高村多恵子、津端みち子、石井弘志、猪俣昌子、阿部忠男、早川幸子、徳江明、阿部道子、遠藤明夫(第6回生)久道勝信、鈴木季子、末永敏郎、清水秀昭、長崎紀久子、相澤昌男、細川金子(第7回生)田上富美子、芳賀鐵夫、金澤功、伊藤恵子(第8回生)首藤光春、御牧道子、高橋静子、川島あつ子、市川洋子、菅野邦子、梅沢治子、今野ひさ子、鈴木健司、関春美、樽見和子、橋本照嵩、島山尚、松田勝治、山手てい子、高嶋展廣、金森喜美子、古胡満子(第9回生)飯田勝紀、山川孝子、伊藤幸子、後藤安男、田籠美子、早田光、高橋洋治、小泉勝子、菊池正、飯田勝紀、加藤照子、森孝二、田中龍子、青山さわ、喜友名典子、梓田洋子(第10回生)川野澄子、田代勝彦、今井和子、緒方正子、勝又勝、高泉政勝、奥村カツ子、加藤幸子、菅ノ又桂子、斎藤宣子、角田守弘(第11回生)高橋和子、雫石登志子、吾妻優子、加藤護、菊池保夫、後藤永子、高井篤三、池永喜美子、渡邊みよ、間部和子(第12回生)南里憲三、吉田義男、奈良坂仁、村上秀一、今井あい子、夏目都喜子、金澤由紀子、西條修、岡崎国男、堤和子、佐藤正克、岡崎好子、安田淳子、小林美智子、奥田捷治、山下秀子(第13回生)須田正毅、赤塚誠哉、佐々木次臣、竹内政子、佐々木文江、小堀敦子、岡田ちづ子、植草良子(第14回生)高橋真理、梅沢歌子、鈴木照子(第15回生)島山清光、今野和子、星澤晋、今井恵子、星憲夫、山形昌子(第16回生)森岡芳朗、葉良枝、佐藤政彦、園田美智子、渡辺啓子、岡康博、坂口いく子、大久保和夫、星澤正孝、青山憲介、吉田義弘(第17回生)今野雅隆、佐々木真木男、佐藤秋男(第18回生)山口広治、山崎容子、河口登喜子、中西園子、浅野和雄、田村隆、出雲雅明、渡辺総一、高梨誠(第19回生)亀山憲一郎(第20回生)杉山茂、新田輝夫、穴原直子(第23回生)岡田文彦(第25回生)星野祐一(第26回生)鈴木雅芳、高橋裕子、茂泉吉則、大久保多賀子(第27回生)渡辺寛治(第32回生)井上俊次、生田由紀子(第33回生)菅原洋樹(第34回生)星野知倫(第36回生)浅野剛 (以上順不同)

※会費を納入された方で、お名前が記載がない方は事務局までお知らせください。

■お詫び・訂正/平成21年度年会費納入者掲載もれ。高橋治郎さん(7回生)同寄付者/遠藤正子さん(5回生)北川貴恵子さん(7回生)

### お振込に際してお願い

窓口を通してお振り込みされますと、手数料が120円徴収されます。振り込み用の機械(CD)で振り込まれますと、手数料は80円となります。出来るだけ、振り込み用の機械(CD)でお振込みされますよう、お願いいたします。  
 (平成22年度会計報告は来年6月総会にて行います。)



### 東京・石中会への寄付

東京・石中会も今年で9年目に入ります。会の運営は、基本的には同窓生皆様からの貴重な年会費を財源としておりますが、事務費用その他の活動で、財政的にはまだまだ脆弱な面を有しています。

東京・石中会では、引き続き皆様からの貴重なご寄付を受け賜っております。ご芳志は、下記事務局宛にお送りくださいますようお願いいたします。 飯田 勝紀

〒253-0072 茅ヶ崎市今宿360-3-2-302

### 〈東京石中会〉ホームページのお知らせ!!

念願のホームページを開設しました。東京石中会の情報だけでなく、石中や石巻情報なども載せてあります。是非ご覧ください。

<http://book.geocities.jp/tokyosekikichukai/index.html>

# 第9回 東京・石中会 来年6月に開催致します。

## 開催会場は次回会報にてお知らせします。

感想・ご意見をお寄せください

「東京石中会だより」第7号はいかがでしたでしょうか。皆様のご感想やご意見をお聞かせください。皆様からの声を活かして、皆様から愛される広報紙にしたいと思っております。

### 投稿、大歓迎!!

石巻での思い出、中学時代のことや最近石巻を訪れて感じたこと、イラスト、俳句など大歓迎!

皆様からの投稿をお待ちしております。投稿にはお名前、ご住所、回生、電話番号を明記の上、2000〜4000字くらいにまとめて左記事務局まで郵便でお送りください。

宛先：東京・石中会 事務局

飯田 勝紀 〒253-0072  
 茅ヶ崎市今宿 360-3-2-302

### 事務局だより

「東京石中会」が設立されて、10年目を迎えることになりました。その間順風満帆とまではいかないまでも、会の組織や会報の内容が充実してそれなりに進化してきました。そのような中、突然「11月日本大震災」が起き、復興支援体制づくりに追われてしまいました。これまでの会の主たる事業は「①毎年行われる「総会」②「会報」友よ「東京石中会だより」の発行 ③「母校への」課外授業講師派遣」でしたが、①の総会は中止に、②③は継続実施をすることになりました。事務局が掌握している現在(平成23年7月23日)の会員数は641名です。すべての方に総会案内と会報を郵送しております。会の運営はこのとき同封する振込用紙による皆様方の年会費(1000円)によって賄われておりますが、昨年の年会費納入者は178名で、とても間に合いません。不足分は会報に記載されている通り、有志の方々の寄付金と会報の広告料で補っております。事務局からのお問い合わせは、震災後の年会費の納入のお願いは非常に心苦しいのですが、一人でも多くの方のご協力をお願いします。

- 編集・広報 委員長 井上勝夫  
 委員会スタッフ 委員 首藤光春  
 委員 鈴木健司  
 事務局 飯田勝紀